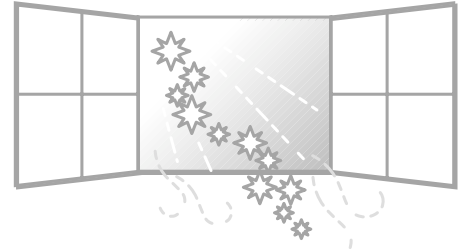


「言葉の前に感性で」

人権の窓を開けて、優しい陽の光と、さわやかな風を感じてください



「自然に胸が響くのか。気がついたら体全体が鳴り響いているのに気がついた。感動した。でも、これを言葉に変えといわれても難しいなあ。そやけど、すごかったし」

日本でも有数の和太鼓演奏団や国際的な少年合唱団の合唱を鑑賞したときに聞いた、中学生の感想でした。そして、しばらくして、音楽の授業を熱心に取り組みだしたと聞かされました。

物事の良さを感性で受け止めて、「良かった」と思うことを自らも表現していく。このことは、人を尊重することや生命を大切にすることについても同様のことがいえるのではないだろうか。人との出会いや何気なく毎日交わすあいさつにも、人を大切にしたいが響き合うものでありたいです。

生命の重要性を表現するのに「命は地球よりも重い」とよくなります。母親にぎゅっと抱きしめられた強さや、厳しく叱られた父親の姿に、「生かされている自分の命」や「自分のことを思ってくれている人がいる」こと

や、「人として生きることへの切実な願い」を実感したことがしばしばありました。私たちは、言葉で理解するとともに、人を通して体感し、自然に学んでいくことが多いものです。人は人にとって最大の環境ともいいます。

いま、児童虐待、そして親子や親族、家族間で起こる生命にかかわる痛ましい事件や事象などを聞くときに、言葉による理解だけでなく感性によって体感する自尊感情や存在感の醸成の重要性が問われているように思います。

私は常に、人は人によって生かされていることを思っています。それだけに、人を尊重し、大切にできる認識を強く持つて人と出会うことができるように、人権についての学びを進めたいと思います。

また、「おはようございます」「ただいま、かえりました」とあいさつする子どもたちは、地域社会の人々の温かいまなざしを感じているからだと思っています。

(教育委員会教育長

牧野 修)



抽象彫刻「未知への階段」
松本 麻希さん (3年)



「ペン皿」
仲 麻美さん (2年)



デッサン「私の手」
川勝 聖也さん (1年)



抽象彫刻「無数の窓」
今西 千耀さん (3年)



「ペン皿」
西河 英理子さん (2年)



デッサン「私の手」
谷口 結香さん (1年)

なんたんミュージアム
—南丹市立八木中学校—